

道岳連だより

広報 NO.96
令和5年1月5日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

2023

年頭のあいさつ

北海道山岳連盟会長 石井 昭彦



明けましておめでとうございます。

令和2年1月からコロナウィルスが全世界に広がり、4年目を迎えました。ワクチン接種も4回目、5回目となり、現在、第8波と言われていますが、まだまだ感染に対する不安と混乱の中にあります。

私は、昨年5月の総会において6期12年間会長を務められた小野倫夫氏より会長職を引き継ぎました。丁度、道岳連創立70周年の節目の年に当たり、記念行事、記念誌発行など、コロナ禍の中、加盟会員の皆様にご協力をいただき、無事に周年行事を終了することができました。特に、登別山岳会さんには全道交流登山会登別大会を主管開催していただき、これもコロナ禍のために2回流れ、3年振りに全道の山仲間と交流することが出来たことは大変嬉しい事でした。登別山岳会の皆さんに、あらためてお礼申し上げます。

また、70周年記念事業として下山副会長兼海外登山委員長が計画した「2022 エベレスト街道～カラパタル(5545m)」も、参加した6名全員が登頂され無事に帰国しました。お疲れ様でした。

昨春から研修の場をネイパル深川とネイパル足寄に替えて登山総合研修会を行いました。新年度はネイパル砂川を利用して開催する予定です。どこの場所が集まりやすいのか模索していますが、多くの会員の参加をお待ちしています。

第77回国民体育大会(いちご一会とちぎ国体)では、少年女子(吉田ゆな、上原子音羽)がリード競技で8位に入賞しました。少年女子では7大会振りの入賞で、今後の二人の活躍が期待されます。

常任理事会は隔月で開催しています。コロナ禍でもあり、リモート併用で開催していますが、次の会議に間に合わない案件や急ぎの案件は常任理事会のメーリングにて承認を得るようにしています。会員の皆様に研修会や講習会の情報が滞ること無く、お知らせ出来るよう取り組んで参ります。

これから冬本番を迎えますが、遭難対策を考慮した登山計画と装備を持って活動してください。

終わりになりますが、会員の皆様とご家族のご健勝を祈念して年頭のあいさつとします。

北海道山岳連盟創立70周年記念式典・祝賀会

令和4年10月23日 午後1時から ホテルライフオート札幌

北海道山岳連盟は昭和27年に道内の山岳団体が大同団結して組織されたもので、今年で創立70周年を迎えたのを機に、10月23日(日)記念式典と祝賀会がホテルライフオート札幌(札幌市中央区南10条西1丁目)で開催された。

朝から時折小雨が降る中、13時の式典開始にあわせ日本山岳・スポーツクライミング協会、北海道スポーツ協会、秀岳荘、北海道勤労者山岳連盟、美唄市教育委員会、北海道山岳ガイド協会などの来賓、加盟団体を合わせ80余名の出席者が会場に訪れた。

記念式典は、当連盟明田理事長の開会宣言で幕を開け、山岳関係物故者に黙祷を捧げた後、当連盟石井会長が式辞の中で70年の歴史と今後に向けての展望を述べた。引き続き表彰を行い、道岳連活動への貢献、協力に対して4団体、3名に感謝状、2名に永年特別表彰、5名に永年功労表彰、19名に功労表彰、3団体に社会貢献表彰が贈呈された。これに対し、受賞者を代表して小野倫夫氏(当連盟名誉会長)、秋葉久司氏(富良野山岳会会長)、澤田時人氏(登別山岳会事務局長)から謝辞と今後の抱負を頂いた。引き続きご来賓の方々を代表し、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会会長丸誠一郎氏、公益財団法人北海道スポーツ協会会長荒川裕生氏からそれぞれご挨拶を頂戴した。

本年、稚内からえりも岬までの単独縦走を成し遂げた北海道山岳ガイド協会野村良太氏より『積雪期単独北海道分水嶺縦断』と題する記念のご講演を拝聴し、当連盟下山副会長の閉会宣言、出席者全員で記念撮影の後、閉会となった。



参加者記念撮影

これに引き続き、15時から同じ会場で祝賀会が開催された。石井会長が開会挨拶の後、土屋顧問による祝杯で開宴となり、マスク着用やビールの注ぎ回しの禁止ほか、いつもより倍の間隔で円卓に着席するコロナ感染対策で祝賀会が進められた。本年は70周年記念事業として海外登山、全道交流登山会、山の日登山会を実施しているほか、発刊された記念誌の内容等について齊藤副会長からそれらの概要が報告された。終始和やかに祝賀会は行われ、正面のスクリーンには土屋顧問編集の

映像が映し出される中、祝賀会には遠路はるばるお越し下さった会員も多く、斜里山岳会滝澤氏、函館地区山岳連盟吉野谷氏、秀岳荘小野社長などからショートスピーチを頂戴して恒例の雪山賛歌を全員で合唱し、田中副理事長の乾杯でお開きとなった。



表彰・功労賞贈呈



祝賀会

創立70周年記念事業

1 山の日登山会

2022(令和4年)8月11日(山の日)
道岳連主催で旭岳登山会を開催したほか
8～9月の二カ月で「ふるさとの山を登ろう」行事を各山岳連盟、山岳会が実施した。

2 全道交流登山会

2022年(令和4年)8月27日～28日
登別山岳会が主管し登別市で実施した。

3 海外登山

2022年(令和4年)11月9日～30日
ヒマラヤエベレスト街道トレッキング&カラパターール登頂。

4 70周年記念誌発刊

「北の岳友とともに」掲載内容
1. 道岳連の主な事業
2. 専門委員会・地方岳連の活動
3. 統計資料・年表

5 70周年記念式典・祝賀会

2022年(令和4年)10月23日
記念式典、功労者表彰、祝賀会

行事・各種事業報告

創立70周年記念事業

エベレスト街道トレッキング&カラパターール(5545m)登頂
11/8～30

2年前から新型コロナウイルスの大流行で中止になっていた、エベレスト街道&カラパタールの登頂の計画を、今年度はコロナ感染も多少終わりの兆しが見え始め、日本入国時の水際対策措置もワクチン接種により、渡航も可能な状況になって、3年越しにやっと開催することができた。

期間は、2022年11月8日～30日(23日間)。参加者は会員3名+個人会員2名+スタッフ1名の計6名で催行する。成田国際空港とカトマンズ間をネパール航空会社の直行便が飛んでおり、7～8時間で乗り継ぎなく楽に現地入りすることができた。

ネパールヒマラヤは9つの山群に分かれており、今回のクーンブヒマール山域は世界の最高峰エベレスト(8848m)を中心に、ローツェ(8516m)、マカルー(8463m)、チョー・オユー(8201m)の8000mを越える巨峰4座と、これに次ぐ高峰、名峰が数多く聳える山群。この度は毎日お天気が良く、お陰様で素晴らしい山々を眺望することができた。

現地入りした2日後からトレッキング開始。一般のツアーより休養日や停滞日に高度順応を行うように2日ほど多い日程で組まれており、軽い高度障害(頭痛や発熱)は見られたが、カラパタールの登山口となるゴラクシェプの最終小屋(5175m)まで、全員で辿り着くことができた。

昼頃の早い時間に着き、翌日にカラパタールを登頂する予定であったが、ツアーリーダーの勧めで、翌日だとエベレストの後方から日が上がり、逆光になるため、可能であれば夕日の時間に合わせてカラパタールに着くと、赤く染まったエベレストが観られるということで、一休みをして14時に出発する。



だんだんエベレストが見えてくる

5500mの空気は酸素が薄いのを実感!! 緩やかな登りだが呼吸が苦しく、ゆっくりゆっくり足を運び16時50分、全員でカラパタールの頂上に立ち、真っ赤に染まったエベレストを観ることができ、長い一日で疲労もあったが頑張ったお陰と皆で感動した。

今年のヒマラヤは、いつもの年より寒さが厳しく風も強く、殆どの方が咽頭や気管をやられて咳や発熱を発症していると、エベレスト街道から戻るツアー会社の情報を耳にする。我がチームも喉対策で喉スプレーやのど飴、Buffで口覆いなどをして予防をしていたが、結局喉や気管をやられて鼻汁、咽頭炎、発熱、咳等の症状に罹患してしまった。天気が良かった分空気は乾燥し、昼夜の寒暖差、登山道の埃などが原因と思われる。



アーベントロートのエベレスト



11/20 16:50 カラパタール登頂

ネパールの観光客は、いつもは大勢の人がウロウロしているカトマンズ市街のタメル街や観光地は、やはり人出は少なく閑散としていた。トレッキングコースや山小屋も出会うのは欧米人が多く、アジア系は韓国やシンガポールの方が少数いたが、いずれにしても全体的にコロナ禍前よりかなり少なく、Katmandu からルクラ空港の飛行機も数機往復するくらいで、早々に客の移送は終わっている状態で、コロナの影響はまだまだ続いていた。

海外登山委員長 下山 シゲ子

第2回 理事会 10/23 ホテルライフォート札幌

道岳連令和4年第2回理事会は、10月23日(日)道岳連創立70周年記念行事に先立ち、ホテルライフォート札幌で、理事・常任理事32名の出席、委任状提出理事20名の計52名で開催した。

石井会長の開会挨拶の後、明田理事長が1号議案令和4年度前半を振り返ってで、新執行体制の下コロナ対策を徹底する中、3年振りに総会・理事会が集合形式で開催でき、加えて全道交流登山会も実施され多くの岳人が集った。天候不順などによる中止もあったが順調に事業を消化している。



第2回理事会

現下の情勢においても老若男女が多数登山をしており、この層が道岳連に足が向くよう工夫を願いたい旨を訴えた。

2号議案 令和4年度前期事業報告については、各委員会委員長及び担当者から令和4年4月～同年9月末までの事業内容が報告され、異議なく承認となった。

3号議案 令和4年度後期事業予定についても、質疑はなく承認。4号議案その他の議題では、事務局より第3回理事会は来年4月16日に、総会は5月14日に開催予定していること、会長からは美唄山岳会宮西会長が美唄山登山道の開削で美唄市の功労賞を受賞したことが報告された。また、記念式典で表彰受賞される個人・団体等の受賞理由が提示され、拍手で承認された。

最後に理事会出席者の所属団体や本人の近況などの報告があり、石井会長は、60周年の時、道岳連会員は2500名であったが、70周年の現在は1590名で900人減少した。今後の80周年に向け、会員数を維持したいとの決意を表明し会議を閉じた。

登山総合研修会 11/5-6 ネイパル足寄・芽登ロック他

令和4年11月5日(土)から6日(日)の2日間、ネイパル足寄で登山総合研修会を32人の参加を得て開催しました。初日の研修は、元太平洋炭鉱山岳部白取雅文氏による「元太平洋炭鉱山岳部高崎隆氏(故人)と同氏の海外登山の記録などについて」と題してお話を聞きました。

同氏の豊富な海外登山を通して高所登山の厳しさやリーダー高崎隆氏との交流など、心温まる話が参加者の胸に響きました。

夕食後、「ロープワーク」を研修会場で行い、参加者から「マンツーマンで教えてもらい、すご

く勉強になった」の声が事務局へ寄せられていました。

2日目は「ウコタキヌプリ登山」「地図読みのための無名山(カムイロキ山)登山」「芽登ロック」の3班に別れ、それぞれ研修を行い、現地で解散しました。

来春の登山総合研修会は「ネパール砂川」で開催を予定(令和5年4月9日-10日)。



白取講師の講演

参加者感想 登山総合研修会「ウコタキヌプリ登山」に参加して …… K・Aさん

ススキ野原と泥の轍を超えて登山口に到着する。地形図に登山道が載っていないので、アプリから地図に落として「今日は、これとアプリ」を使って歩き始める。川の渡渉を何回か繰り返すが、地図から想像していた山容とは違い両岸が切り立ち、谷は深く若草色の苔が鮮やかで晩秋とは対照的である。川幅が広がり手作り標識、テープにより尾根に取り付く。カサカサと音を立てる「落ち葉を踏みしめながら作業道らしき道をすすむが、相当下に沢が見えやはり想像とは違うなあと思



ながら、スカイラインに出る。風はあるけれど天気はすこぶる良く、眺めが素晴らしい。最初のP747で満足けどその先のピークの景色が観たく反射板のコルに歩みを進める。コルは禿げ坊主で登山道のササの丈も低いことからいつも風が強いことが感じられる。P747を目指して登り詰めると雌阿寒岳、阿寒富士が見える。

ピークに到着。広くない頂上で集合写真を撮り、各自景色を満喫し下山を開始する。ほぼ予定通り登山口に到着

した。標高は高くないが回り全ての景色が見渡せる素敵な山であった。

自然保護指導員の集い 8/6-7 白金野営場・美瑛富士

2022年度の北海道山岳連盟の「自然保護指導員の集い」は、8月6日～7日の二日間に亘って美瑛町の「国設白金野営場」と美瑛富士、オプタテシケ山で開催し9名が参加した。

研修内容は1日目に野営場において座学研修をしてケビンに宿泊。翌日は早朝出発し道岳連が当番になっている美瑛富士携帯トイレブースの点検パトロールを実施した後、オプタテシケ山と美瑛富士に別れて調査登山を実施した。

1日目の研修は地元的美瑛山岳会内藤理事長から、美瑛富士避難小屋における携帯トイレ普及啓

発活動の経緯説明と、道岳連自然保護委員会の活動について意見を交換した。2日目は登山口を5時に出発し美瑛富士避難小屋到着後ブース内外の点検、清掃及び小屋周辺のゴミや汚物、使用済みティッシュの回収などを行った。9時頃に点検を終わらせてオプタテシケ山と美瑛富士の二班に分かれて行動開始し、オプタテシケ山には11時40分に登頂、長い復路も順調なペースで歩き、予定の17時に無事登山口に到着し解散となった。



テント内で座学研修



トイレブース点検終了

参加者感想 自然保護指導員研修に参加して・・・ 個人会員 T

今回の研修は、美瑛富士避難小屋の携帯トイレブースの点検、小屋清掃も兼ねていました。

初日は、副委員長の内藤さんより避難小屋のトイレ問題について現在までの経緯をお話いただきました。小屋周辺に限らずあちこちに汚物やティッシュの白い花!! がとても酷かったことを知りました。私自身の山歴は浅いので「携帯トイレ」を常備することは、雨具や行動食等を用意するのと同じことなどで驚きました。山に癒やされ、花を愛でながら気持ち良く歩きたいのに汚物や異臭がしては気分が悪いですし、悲しくなります。それだけではなく、用を足す場所を探すために登山道から外れ、高山植物を踏み、トイレ道が付けられてしまいます。

翌日は避難小屋へ向かいました。とても歩きやすく、たくさんのお花を愛でながらの山歩きでした。到着してからは、小屋内の清掃、トイレブース内の清掃、周辺の見回り清掃と各担当で作業をしました。とても綺麗に使用していただいていたので嬉しかったです。作業中も携帯トイレを使用している登山者、感謝の言葉をかけて下さる方々にも嬉しくなりました。

自然を親しみ、自然の美しさをこれからもずっと感じていきたいと改めて認識しました。今の自分に出来る事を続けていこうと思います。

美瑛富士避難小屋トイレブース点検作業後、美瑛富士山頂を目指すグループとオプタテ山頂を目指すグループに別れて山歩きを楽しむこととし、それぞれ山頂を目指す。

美瑛富士方面ではチングルマ、エゾコザクラ、アオノツガザクラ、シラネニンジン、ジムカデ、ウサギギク、タカネトウチソウ、イワギキョウ等の高山植物が見られた。



参加者感想

自然保護指導員研修に参加して 個人会員 N

今回初めて道岳連のイベントに参加させてもらいました。自然保護研修で、美瑛富士避難小屋の携帯トイレブースの点検と清掃、そしてオプタテシケ山への登山という内容です。自然保護活動には強い関心があり、少しでも勉強になればとの思いで参加しました。

1日目は国設白金野営場で講義や作業の説明を受けた後、自然保護指導員や参加者の方々と夕食を共にし、お酒を飲みながら諸先輩方々の色々な話を聞くことができとても有意義でした。

2日目は午前5時に美瑛富士登山口を出発、オプタテシケ山までは片道約10kmのロングルートで、まずは美瑛富士避難小屋を目指します。午後から雨の予報が出ていたので天気が気がかりでしたが、晴れ間も広がり登山日和に。3時間半ほどで美瑛富士避難小屋に到着し、早速小屋と携帯トイレブースの点検・清掃に取りかかりました。思っていたよりも綺麗で、携帯トイレの普及もあり、山のトイレマナーも少しずつ良くなっているように感じました。

点検も終わり、休憩の後いよいよオプタテシケに向けて出発します。石垣山、ベベツ岳を越えた先にオプタテシケ山が聳え立っていました。登って下り、さらに登り返して・・山頂が見えてからも歩いても歩いても中々辿り着かない。避難小屋から4kmの距離が果てしなく遠く感じましたが、午前11時45分ついにオプタテシケ山の頂上に。達成感もひとしおです。帰りも同じだけ歩くことを考えるとゾッとしましたが、登頂の喜びを噛みしめ。午後からも天気が崩れることもなく、スケジュール通りの17時無事に下山。12時間という長い山行でしたが、複数人でパーティーを組んで登るという経験が少なかったのが、新鮮で楽しく勉強にもなりました。また参加できればと思います。



ベベツ岳山頂からのオプタテシケ山

夏山講習会 Part3 9/17-18 楽古岳

行動概要 楽古岳 天馬街道から

9月17日(土) 曇り

R235 浦河、みついし昆布温泉、蔵三(みついし道の駅) 集合

R236 天馬街道・陽春橋から、楽古山荘 宿泊 21:00 就眠

9月18日(日) 曇り

4:30 起床 5:10 朝食 6:20 山荘発 7:30 上二股 470m 8:10 標高 670m
10:40 楽古岳・山頂 1471m 11:00 山頂から下る 11:30 標高 1300m 11:50 標高 1120m
13:20 上二股 14:30 山荘帰着 15:00 解散 16:00 みついし昆布温泉・蔵三 入浴

行動記録

9月17日（土）曇り

天気予報は18日（日）午後から雨。本日の午後から雨は降らないで欲しいと願う。楽古山荘には、先客0氏グループ7人が居た。おひさしぶりねと、相互に挨拶を交わす。山荘内は先客が掃除済みで我らは楽をした。テントは止めて山荘泊にした。

野外にテーブルをあつらえて、夕食の準備。30分、嫌な害虫ダニの勉強、食事・交流。21:00～就眠、夜中は小雨になった。

9月18日（日）曇り

早朝やや小雨、起床した時には止んでいた。野外で朝食、6:20に出発できた。午後の雨が心配で、雨になったら下山として入山した。

上二股まで大小6度の渡渉は、水流は少で楽に通過した。尾根へは急斜面、曇天で蒸し暑い、台風14号のせいだろう。行動中、人によっては1～2ℓの水を飲用した。

標高1120mかな、右崖淵の狭い平地に達したが、周囲はガス、展望はなし。山頂手前のピーク1317mに達すれば、一安心、ここで休憩中の0氏に遭遇した。

周囲は濃霧で展望なし、山頂は風が強くて早々に退却。標高1300m、風を避けて昼食と大休憩をとった。

帰路は足腰に力を入れ、上二股に下り降りた、13:20。山荘14:25帰着。

上二股から気持ちに余裕ができ、コクワを多数発見、まだ未熟で酸っぱかった。

オシロイシメジも発見した。収穫しなかった。行動中雨が来なかった。参加者はダニにやられなかった。怪我、事故無く無事下山。殆どが山頂に達した。車で帰路移動中に降雨で、ラッキー。多くの面で恵まれた。

参加者 スタッフ3名+11名

（文責 橋本 一郎）



楽古山荘前で参加者とスタッフ

参加者感想

楽古岳登山 感想

.....

一般参加 T

9月17日、18日、1泊2日にて楽古岳登山に参加させていただきました。総勢14名にてのチームを組んでの登山。普段は低山を中心にソロでの登山ばかりなので、チームを組んでの登山の賑やかさ心強さは特別な思い出になりました。

「ミスターHの大冒険」と称された初日、楽古岳に向う道中は、思い出に残る珍道中となりました。Hさんの愛車にて相乗りをさせていただき4名で集合場所のみついし道の駅に向うため輪厚インターから高速に乗り、いざ出発。会話も弾みワクワクドキドキと期待を弾ませながら、ガイドのノウハウをご教授していただきながら順調に目的地に向っているはずでした。ところが、Hさんの「あーっ」という突然の叫びにより事態が急変します。日高方面に向わなくてはいけない分岐を見過ごし、函館方面へ走っていたのです。気づいた時は登別付近、肩を落とすHさんを見かねて乗車しているメンバーで車内の空気を盛り上げながら、高速を折り返し一時間遅れで集合場

所到着となりました。無事メンバーと合流した後は、山荘に到着。夕食の準備に手際よく移り宴の時間と。

生憎の天気で、星空は見えませんでした。お酒で会話も弾み初めて参加させて頂いた自分にもメンバーの方々から優しいお声がけをいただき、あっという間に就寝の時間。メンバーの方々には山荘にて、自分は経験値を積むためソロテントにて就寝。翌日まで天気が保つと思われましたが、夜中から数時間雨が降り続き雨音、浸水など快眠とはほど遠いコンディションでしたが、翌朝は雨も止み予定通り楽古岳登山出発となりました。

立花さんを先頭に渡渉を7回ほど終え登山道に突入。予定より早いペースにて順調に進み、みんなで励まし談笑しながらの登山。初心者自分には先輩達からの温かい心遣いや登山のテクニック



装備品など丁寧に教えて頂きながら

1472メートルの頂上まで登頂できました。生憎の天気ですべての尾根歩きや山頂でも視界不良のため見渡す景色は真っ白でしたが、メンバーと達成感を共有するという感動を覚えさせていただきました。

とても重いザックを背負い、先輩達がひたむきに一步ずつ進んで行く姿に尊敬の気持ちが大きく芽生えました。

また、ご一緒できる機会がありましたらよろしくお祈りいたします。最後に帰りの道は間違えることなく「ミスターHの大冒険」は幕を閉じました。

第77回国民体育大会(いちご一会とちぎ国体) スポーツクライミング競技 11/1-4 栃木県壬生町特設会場

いちご一会とちぎ国体を振り返って

1 3年振りの国体

新型コロナウイルス蔓延のため、第75回鹿児島国体が延期、第76回三重国体が中止となったが、第77回栃木国体は万全なSコロナ対策行い開催された。

北海道ブロック予選会は令和4年8月6日にリード競技を美唄市体育センターで、7日にボルダリング競技をグラビティーリサーチ札幌において行われ、リード、ボルダリングの2競技において上位2名が正選手、3番手が補欠選手に指定され、9月25日の最後の強化合宿までコロナウイルス感染防止対策を行ったうえで、それぞれの選手が練習を続けて来た。

今回の栃木国体では総合開会式に参加することとなったが、山岳競技では2004年(平成16年)第59回埼玉国体以来の総合開会式参加となった。また、北海道選手団の旗手を成年男子の坂本大河が努め、堂々たる行進をして選手団を率いた。



旗手の坂本選手

2 コロナ感染防止対策

コロナ感染防止対策として補欠選手を含めた参加予定者全員に対して道スポーツ協会より2週間前からの体温、体調等をGLOBAL SAFETYというアプリに登録、入県5日前のPCR検査を行い陰性確認、検査結果をアプリに登録。入県日直前の抗原検査、入県2日目の抗原検査結果もアプリに登録するという万全な対策が行われ、競技終了後も14日間、体温、体調等をアプリ登録が継続した。

3 少年女子7大会振りに入賞

各種別の種目毎の成績は次のとおり。

成年男子	(坂本 大河、藤原 稜平)	リード20位、ボルダリング15位
成年女子	(北谷 未紗、上原子 瞳)	リード18位、ボルダリング18位
少年男子	(齋藤 鈴太、工藤 賢悟)	リード19位、ボルダリング13位
少年女子	(上原子音羽、吉田 ゆな)	リード8位、ボルダリング10位

少年女子がリード競技で9年振りに8位に入賞した。2大会が延期、中止だったので、7大会振りに入賞を果たしたことになる。少女選手は前回の第74回茨城国体に中学3年生で出場した吉田ゆな、上原子音羽のチームで、二人とも高校3年生になり少女での出場は最後となる国体で入賞できたことは大きな成果だと思う。ボルダリング競技でも8位と同じ4完登5ゾーンだったが、アテンプト数の違いにより惜しくも10位となった。少女種別の入賞は、今後二人が成年選手となっても成績に期待ができる明るい成果だったと思う。

成年男子は2021年ユースボルダリングのジュニア部門で日本チャンピオンになった坂本大河と、中止となった第76回三重国体の少年男子の正選手に選ばれた藤原稜平がチームを組んで戦った。ボルダリング競技で坂本が2完登4ゾーンで個人13位、藤原が1完登1ゾーンで個人55位、チームとして3完登5ゾーンで順位15位となった。決勝に進むには4完登7ゾーンは必要で、もう一歩力が及ばなかった。

少年男子は三重国体の正選手だった齋藤鈴太と中学3年生の工藤賢悟がチームを組んで戦った。ボルダリング競技はチームでは4完登5ゾーンで13位だったが、8位入賞チームが4完登、6ゾーンのため、こちらももう一歩だった。

成年女子は、二人とも少年女子として国体に出場した経験があるが、コロナ禍の2年間トレーニングもままならない状況だったこともあり、成績は振るわなかった。

リード競技は北海道における練習施設も少なく、なかなか強い選手が育たず、少女以外は入賞には遠い成績であった。

(文責 成年女子監督 石井 昭彦)



少年女子リード決勝 左：上原子音羽、右：吉田ゆな



北海道選手団一同

夏山リーダー講習会・検定会 5～10月 手稲山ほか

日本山岳スポーツライミング協会は、安全に登山を楽しむために必要な知識を習得し自立した登山者を育成する仕組みとして「夏山リーダー」資格制度を新設した。

制度に基づき「夏山リーダー講習会」を実施し、主に無雪期においてパーティーのリーダーとしてメンバーを安全に導くために必要な知識と技術の習得を目指すこととし、今年度は12名の受講者が応募した。

《令和4年度夏山リーダー講習会》

机上講習 令和4年5月28日

実技講習1 令和4年5月29日 実技講習2 令和4年7月2～3日

会場 手稲区民センター、手稲山（ハイランド）&パラダイスヒュッテ周辺

応募資格 18歳以上、夏山2年以上並びに20回以上の登山経験者

《令和4年度夏山リーダー検定会》

検定期日 令和4年10月15～16日

会場 手稲区民センター、手稲山（ハイランド）周辺

検定内容 登山計画、装備、歩き方、ナビゲーション、気象、宿泊、セルフレスキュー
運動生理学、山の文化、規制等、夏山リーダーに必要な知識とスキルの検定。

令和4年度認定申請者（認定証交付者11名）※受講者12名のうち検定会1名欠席

1. 鈴木 一樹
2. 吉田 良平
3. 澤野 克也
4. 國井 遥香
5. 山本 弥生
6. 横辻 宰
7. 松田 豊
8. 五十嵐 誠
9. 水江 一弘
10. 中野富久子
11. 高坂 誠

受講者感想

夏山リーダー講習会・検定会を終えて・・・ 中野 富久子

関東から札幌に移り住み、北海道の山を歩くようになって、本州とは異なる気象条件や、山域ごとの特徴やリスクなどに遭遇し、自分が計画して山行を遂行するための知識に不安を感じていました。そんな折、これまでの知識の再確認と、まだ知らない知識を体系的に理解したいとの思いから本講習会を受講させていただくことにしました。

5月の末からスタートした講習会、肌寒い日、冷たい雨の中、手稲山でのナビゲーション、地図もびしょ濡れでヨレヨレになったのを覚えています。いつも好天の日ばかりを選んで山に行っている身としては、雨対策の必要性を改めて考えさせられた日となりました。続く7月の講習会では、前回とは打って変わって花々の咲き乱れる爽やかな手稲山斜面でのナビゲーション、ツェルト設営や山食作り、ツェルト設営は事前に近所の公園で練習をしたり、また食事では軽量、時短、水を最小限にするなど食事担当として考える良い機会になりました。また、スタッフの方が作製された移動式クマへのスプレー実射まで、普段では中々できない、かなりリアルな条件を想定しての体験もすることができました。座学では運動生理学的な話に加えて、ハードな運動をする際の栄養補給について参加メンバーと具体的な情報の交換をしたりと、充実した興味の尽きない内容でした。

そして10月に入って最後の検定会を前にして、少し緊張した雰囲気での参加。手稲山はすっかり晩秋の装い。幸い暖かい日射しの中、これまでの総復習としてのナビゲーション、セルフレスキューの検定へと続き4か月余りにわたる全6日間の日程が終了しました。

これから本格的な冬山シーズンに入ろうとしています。今回学んだ基本は夏山にかかわらず年間を通して通用することです。パーティー全体を把握して、楽しく、安全な、参加者が安心できる山行を作っていきたいと考えております。

今後の道岳連各種事業予定

氷壁技術研修会（海外委員会・指導委員会）

令和5年1月7日(土)～8日(日) 層雲峡大函・錦糸の滝周辺

※申込み受付終了

山岳スキー(氷雪)技術研修会（指導委員会）

令和5年1月21日(土)～22日(日) 三段山 白銀荘

スポーツクライミング講習会（クライミング委員会） 北海きたえーる

令和4年12月1日 令和5年1月19日 同2月2日 同3月10日

冬山講習会 Part 1（普及委員会）

令和5年2月11日(土)～12日(日) 五色温泉周辺 温泉別館

JMSCA スポーツクライミング部ブロック別研修会(JMSCA)

令和5年2月25日(土)～26日(日) かでる2・7

登山総合研修会

令和5年4月8日(土)～9日(日) ネイパル砂川

第3回理事会

令和5年4月16日(日)

令和5年度総会

令和5年5月14日(日)

★詳細は道岳連HP又は加盟団体配布の開催要項を確認ください。

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.96

令和5年1月5日発行

発行 北海道山岳連盟

事務所 札幌市厚別区厚別北1条4丁目1-4-206

発行責任者 石井 昭彦

編集担当(総務) 内藤 美佐雄